



留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (ズロチ)	日本円	備考
授業料	0	0 円	
宿舍費	560PLN×5/830PLN ×4	212,200 円	
食費		213,824 円	自炊 113,426 円、外食 100,398 円
図書費	0	0 円	
学用品費	0	0 円	
携帯・インターネット費		17,348 円	日本の電話番号への支払いも含む
現地交通費	0	23,529 円	( <input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		49,711 円	
被服費		0 円	観光地で購入したものが多いため旅費に入れています
医療費		5,000 円	保険対象外
保険費	0	112,905 円	形態: 明治大学のもの
渡航旅費		230,675 円	
ビザ申請費	0	0 円	
雑費		49,634 円	
その他		7,418 円	帰国前に 14kg の荷物を日本に送りました
その他		748,085 円	旅費
合計		1,665,329 円	

渡航関連	
<b>渡航経路</b>	
<b>往路 出発地:</b> 成田国際空港 <b>目的地:</b> ワルシャワシヨパン空港 <b>経由地:</b> 北京国際空港	
<b>復路 出発地:</b> シャルルドゴール空港 <b>目的地:</b> 成田国際空港 <b>経由地:</b> タンソンニャット空港	
<b>渡航費用</b>	
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: 料金:	
② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:中国国際空港 料金:76,805 円 復路 航空会社:ベトナム航空、ベトジェットエア※ベトナムを訪問する用があったのでベトナムを経由しました 料金: 153,870 円 ∴合計:230,675 円	
<b>航空券購入方法</b>	
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名: ) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:スカイキャナー) <input type="checkbox"/> その他( )	
滞在形態関連	
<b>1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)</b>	
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前: 10 番寮 Olimps) <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ	
<b>2)部屋の形態</b>	
<input type="checkbox"/> 個室 <input checked="" type="checkbox"/> 相部屋(同居人数2)	
<b>3)共有部分</b>	
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン( <input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)	
<b>4)住居を探した方法:</b>	
大学寮を希望したところ 10 番寮と大学側から指定されました。(夏学期から留学に来ている人の中には選べた人もいたと聞きました。)	
<b>5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)</b>	
<p>すべての人におすすめできる寮はないです。自分の大事にしたい点を見て大学寮かプライベートの寮か選択する必要があります。</p> <p>大学寮の良い点は安い、友人と同じ寮の場合は距離がとても近いので頻りに遊べる場所です。同じ寮の友人と一緒に料理をしたり、部屋で映画を見ることがよくありました。実家暮らしでは経験できないことなので、とても楽しかったです。</p> <p>また、五月中旬に行われる juvenalia(日本の学祭の様なもの)には大学寮ごとに T シャツを作ったり、劇を催しており、そこに参加できた点もとても大学寮でしか経験できないものだったと思います。</p> <p>しかしながら、全く問題がないというわけではありません。ルームメイトによってはストレスが多い生活だと思います。私の場合、冬学期間は日本人のルームメイトがいましたが、夏学期は 830 ズロチ(約三万円、普通に暮らす場合の約 1.5 倍の金額)を払い一人で生活しました。その理由は、寮母さんに引っ越すように言われた先のルームメイトの評判がよくなかったからです。引っ越すためには寮のマネージャーと面談をして書類を記入する必要があります、苦労しました。面談の場合は半ば口論になりました。また、転寮や一人暮らしの申請をしても話を聞いてもらえなかったという人も多いため融通が利かない点もデメリットです。</p> <p>それぞれの大学寮寮の評判をまとめましたので、寮が選べる際には参考にしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5.7.9 番寮は数年前にリノベーションされたので全体的に綺麗で人気。</li> <li>・その次に 10.14(留学生が多い)3.2.11 の寮が良い。</li> <li>・5.8.13 の寮はあまり評判がよくない</li> </ul> <p>グーグルマップでそれぞれの寮を検索すると内装も見ることが出来ます。</p>	

## 現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例: 現地の病院、学内の診療所)

- なし  
 あり (治療を受けた場所: VITAPLUS)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。  
(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

- なし  
 あり (問題の内容や相談した人等: ISO(留学先大学の国際事務室)・ENS に所属する現地の友人)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか？その際どのように対処しましたか？

現地に到着して一週間が過ぎたころ、シェアサイクルの盗難に遭いました。経緯としては、まず私がシェアバイクの返却方法を誤ったために、返却されていない状態、つまり私が借りている状態で、誰かに乗り逃げされてしまいました。

この事態に気づいてからすぐにバイク会社に電話をしてレンタルを停止してほしいと頼みましたが、そのためには警察署に行き盗難報告書を発行してもらう必要があると言われました。またそうでないと日本円で約十万円の賠償金を支払う必要があることを伝えられました。

その夜すぐに警察署に行きましたが、私がポーランド語を話せないため、後日通訳を交えて話し合うことになりました。翌日の朝に再度警察署行き、約 2 時間話し合いましたが、盗難報告書は発行してもらえませんでした。警察署の言い分としては、そのバイクはシェアサイクルで私のものではない、また目の前で奪われたわけではないという理由でした。通りバイク会社と警察署のいうことが矛盾しており何もできない状態になってしまったので、この時点で明治大学の保険に電話をしました。(もっと早くてもよかったと思います！)その際、損害賠償には保険が下りるということが分かったので多少落ち着きました。またウッジ大学の ISO にも連絡をして、バイク会社へのメール文を代わりに書いてもらったりなどしていました。

私が出来ることは何無くなってしまったので、その間も授業やパーティーに参加したいましたが、3日目の夜にバイクのアプリで誰かがバイクをステーションに返却してレンタルが終了したという通知が来ました。結果的に 2 日間のレンタル第約 1 万円(保険が効くかもしれないです)を支払うだけで済みました。

今回の事態はすべて私の不注意から始まった事なので反省しています。留学がはじまってまだ一週間もたっていないのでとても焦りました。バイクに乗る際は気を付けてください。ちなみに私はそれ以降一度もバイクに乗っていません。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮には wifi がなく LAN のみ使えると大学から言われていましたが、LAN は使えず、反対に wifi はありました。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか？(例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

apple pay に登録した楽天カード(visa)、物理カードでエポスカード(visa)、wise カード(master)と revolt カード(visa)の計 4 枚を日本から持参して使用していました。wise と revolt はデビットカードなので毎月親に銀行に振り込んでもらっていました。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

消臭・抗菌機能のあるファブリーズのようなもの。マットレスやコートなどは洗えないので匂いが気になりました。ポーランドにあるものは香料でごまかすようなものなのであまり私には合わなかったです。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)	
1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
51 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 32 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他( ) <input checked="" type="checkbox"/> 履修の制限があった:1 学期あたり 24ECTS 以上 30ECTS 以下/自分の所属する学部から 70%	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Intercultural Communication	異文化コミュニケーション
科目設置学部・研究科	Cultural Studies, Polish Philology, Journalism, Library Sciences
履修期間	winter semester
単位数	5
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Lecture and project(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 90 分が 1 回
担当教授	dr Julita Woźniak
授業内容	異文化間コミュニケーションの原理を、対人的・組織的な側面から学びます。文化のコンテキストにおける言語とコミュニケーションを論じる様々な理論に基づき、言語的、非言語的、暗黙的、明示的な文化的意味の符号化、伝達、交渉の方法を探求する。文化的アイデンティティ、集団主義社会と個人主義社会、コミュニケーション/交渉スタイル、コミュニケーションにおける礼儀正しさと間接性、時間と空間の概念化、権力の言語的顕在化、非言語的コミュニケーションについて学びます。
試験・課題など	途中で、学生自ら三か国以上の学生を含む約 6 人でグループを作り、授業外の時間で何かしらの異文化交流を行いその様子のプレゼンを行いました。期末には筆記試験を行いました。
感想を自由記入	大きなホールで行われる大規模な授業でした。講義内容的に様々な国籍の人が参加していました。異文化への適用の段階を学んだことにより、自分が少しホームシックになった際にも客観的に捉え、受け入れることが出来ました。文化の違いの指標として 3 人の学者による 3 つの理論を学びました。そこで改めて、言語・文化には、人権的に問題のないものであれば優劣はなく、お互いが尊重しあうことが大切だと感じました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Phonetics 1	音声学1
科目設置学部・研究科	Cultural Studies, Polish Philology, Journalism, Library Sciences
履修期間	winter semester
単位数	2
本学での単位認定状況	1 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Tutorial(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 90 分が 1 回
担当教授	Prof. Anna Cichosz
授業内容	イギリス英語の音体系に対する認識を高め、基本的な発音記号と音声表現と学び、発音とリスニング力を向上させるための体系的な練習をします。
試験・課題など	毎授業ごとに取り上げる発音記号を含む単語・文章のレコーディングをして提出します。出来ていない部分があればやり直して再提出をします。 試験期間にテストはありませんが、授業内で中間と期末の筆記試験を行いました。
感想を自由記入	発音記号についてあいまいな知識しかなかったので、適切な知識を身に付けて発音を矯正するために受講しました。親切丁寧に指導して下さる教授で、授業の内容も分かりやすく、満足感と達成感を感じた授業でした。正規の一年生が必修で取る授業に参加する形でした。14 人程の少人数のクラスなので先生は生徒の名前を全員覚えており、名前を呼びかけながら授業をしてくれるのでとても雰囲気良かったです。一人一人の発音の癖にもしっかり指導をしてくれます。最後の授業の日には全員に 1 対1でフィードバックをくれました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Podcasting	ポッドキャスト
科目設置学部・研究科	Cultural Studies, Polish Philology, Journalism, Library Sciences
履修期間	winter semester
単位数	5
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Tutorials(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 90 分が 1 回
担当教授	Eliza Matusiak
授業内容	ポッドキャストに関する理論的な知識を学んだ後、学生自身でポッドキャストを制作する授業です。ポッドキャスト技術に由来するポッドキャストの特徴を分析し、ラジオ放送との関係について学びます。
試験・課題など	中間には日本のポッドキャストで人気なジャンルや海外との相違点についてプレゼンをしました。期末プロジェクトとして各々制作したポッドキャストを聴き、講評しあいました。
感想を自由記入	学生は 15 人に満たないくらいの数で全員が留学生でした。レコーディングスタジオで行われる授業で机などがなくカジュアルな形をとっているせいか、授業の参加率があまりよくなく、学ぶ意欲が低い学生が一定数いました。中間のプレゼンは私を含め 2 組しか発表しておらず、私でない方の 1 組は発表内容が十分でないと感じていました。先生が一度生徒たちにもっと集中するよう叱ってから、少しは改善しました。授業内容自体はとても面白かったです。私は日本のトレンドと社会問題についてのポッドキャストを制作しました。ちゃんと取り組みればそれだけ褒めてくれる教授だったのでやりがいを感じました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Language of new media and advertising	新しいメディアと広告の言語
科目設置学部・研究科	Cultural Studies, Polish Philology, Journalism, Library Sciences
履修期間	winter semester
単位数	6
本学での単位認定状況	4 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Tutorial/Conversation class(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 135 分が 1 回
担当教授	dr Julita Wozniak
授業内容	<p>広告や SNS、インターネット上の言葉を学び分析する授業です。消費者を動かすための理論やプロパガンダ、ポピュリズムのテクニックを学びます。また、スラングや略語についても学び、新しいメディアが既存の言語に与えた影響について考えます。</p> <p>90 分の lecture と 45 分の practice に分かれている授業です。前者では毎週配布される資料に沿った講義形式で、そののちにリーディングや問題に取り組んだり、ディスカッションをします。</p>
試験・課題など	期末に筆記試験を行いました。テストも lecture と practice に分かれています。
感想を自由記入	<p>国際日本学部にある「広告とメディア」と一部同じ内容があったので、特に難しいと感じることはなかったです。一つの広告をとっても様々な手法が使われていることに気づき、街中の広告の見方が変わったように感じます。また、一般的なメールを例にネットスラングや略語を分析する作業で自体面白かったですし、新しい英語の表現を学びました。授業で扱う資料が当日の朝に配布されていたのですが、講義の時に初見で資料を参照しては講義についていくことが出来なかったため、授業の 1、2 時間前に資料を読み切ってから授業に参加する必要がありました。そのおかげで授業内容にも余裕をもってついていくことが出来ましたし、自信をもって発言できました。</p>

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Polish Culture For Foreigners	外国人のためのポーランドの文化
科目設置学部・研究科	Cultural Studies, Polish Philology, Journalism, Library Sciences
履修期間	winter semester
単位数	6
本学での単位認定状況	4 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	discussion class(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 90 分が 1 回
担当教授	mgr Eliza Matusiak
授業内容	<p>ポーランド滞在中に役立つ、ポーランド文化に関する基本的な情報を学べます。ポーランドの祝祭日、人気の音楽、ダンス、文学、映画、地理、エチケット、文化、非言語コミュニケーションについて学びます。</p>
試験・課題など	期末試験にポーランドに来て驚いたことについてプレゼンテーションをしました。
感想を自由記入	<p>ポーランドについての授業ということで授業自体への意欲はありましたが、役に立った部分もあるのですが、個人的には授業の進行でもたつくところが多くあり、満足に学べなかったのが少し残念でした。</p> <p>例えば、ポーランドの文化に関してのクイズをするにもルールがきちんと定められてないためにその説明に多くに時間を割いたり、祝日を調べてまとめるワークでは、まず白紙に一年間のカレンダーを学生自身で書く必要があり、カレンダーを手書きするだけで授業が終わってしまうこともありましたが、ディスカッションが多く他の国の生徒がポーランドをどのように捉えているかたくさん聞いたことは、この授業を取って良かったと思います。</p>



履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Polish Language	ポーランド語
科目設置学部・研究科	international and political studeis
履修期間	summer semester
単位数	4
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Discussion practice class(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 90 分が 1 回
担当教授	Michał Kobierecki
授業内容	ポーランド語の文字から始まり自己紹介、数字、基本の文法を学びます。
試験・課題など	毎週習った事項を次週に口頭で確認するため、復習が主な課題です。テストはありません。
感想を自由記入	<p>ポーランドにいるからには取った方がいいと思って履修しました。簡単なフレーズだけですが、寮母さんやスーパーのレジの方に対してポーランド語で話せました。その際、現地の人が喜んでくれたことが嬉しかったです。しかしながら、授業の内容や進め方にはあまり満足していません。まず、カリキュラムがしっかりと練られていないように感じました。スクリーンに映し出された資料を基に授業が進むのですが、前のページに戻って参照したいと思っても、授業中にはできませんでした。後半の授業では、1 年しかポーランドに滞在しない私たちには進みすぎている内容もありました。さらに、学生の回答が遅かったり、間違えたりすると、不満げな顔をしたりため息をつくことがあり、それが精神的に負担でした。また、学生内の能力格差が著しかったです。ウクライナの方が三人いたのですが、ポーランド語とウクライナ語は隣国ということもあり言語的な共通点も多く、彼らは既にポーランド語が話せていました。彼らに合わせて授業が進むことがあり、その際、日本人の私には何を言っているのか分かりませんでした。もちろん、ついていけない場合には質問することもできますが、説明を聞いても理解が難しかったです。履修予定の方は、あらかじめポーランド語を勉強しておくといいかもかもしれません。</p>



履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Interactive radio drama. Theory and practice	インタラクティブラジオドラマの理論と実践
科目設置学部・研究科	Cultural Studies, Polish Philology, Journalism, Library Sciences
履修期間	summer semester
単位数	6
本学での単位認定状況	4 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Discussion practice class(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 90 分が 1 回
担当教授	Eliza Matusiak, PhD
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ラジオドラマ - ジャンルの定義と理解。</li> <li>2. オーディオ・アートの双方向形式 - 適応と決定要因。</li> <li>3. オーディオ・ストーリーのイベント空間 - インタラクティブなオーディオ・ストーリーはどのように構築されるのか？</li> <li>4. 古典的ラジオドラマとインタラクティブ・オーディオ・ストーリー - 類似点と相違点。</li> <li>5. インタラクティブ・オーディオドラマの脚本と音声素材。</li> <li>6. アレクサ、私のオーディオドラマを開いて - バーチャルアシスタントとの共同作業。</li> <li>7. 対話型オーディオドラマの様々な例を聴き、分析する。</li> <li>8. 短いインタラクティブ・オーディオ作品を作る - ステップ・バイ・ステップ <ol style="list-style-type: none"> <li>8.1. テーマと台本の分析</li> <li>8.2. 作品の構成</li> <li>8.3. インタラクティブ・オーディオ作品の台本を書く</li> <li>8.4. 音の収集</li> <li>8.5. 編集とモニタージュ</li> <li>8.6. オーディオストーリー作品のフレーミング</li> <li>8.7. リスニング・セッション</li> </ol> </li> </ol>
試験・課題など	個人でのインタラクティブラジオドラマ制作を選びました。4 月中に台本をし、5 月 6 月で録音と編集をしました。
感想を自由記入	<p>前学期に受けた Podcast と同じ教授だったので受講しました。制作物として私は「紅茶と同意」というイギリス警察によって製作された性的同意の話のテーマにインタラクティブドラマを制作しました。他の生徒は、実際の殺人事件の再現ドラマや基や中世ヨーロッパを舞台にしたものなどを制作していました。</p> <p>また台本を制作する際に、英語の文法に注意を配るだけでなく、キャラクターの性別・性格、また場面の状況にふさわしいかどうかを考えて台詞を書く必要があったのですが、明治大学で履修した言語学の授業で得た知識が活用できたのではないかと思います。</p> <p>留学で何か作品を創りたいという人におすすめの授業です。</p>

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
New Media Storytelling	ニューメディアにおけるストーリーテリング
科目設置学部・研究科	Cultural Studies, Polish Philology, Journalism, Library Sciences
履修期間	summer semester
単位数	5
本学での単位認定状況	3 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Discussion practice class(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 90 分が 1 回
担当教授	Eliza Matusiak, PhD
授業内容	インスタやティックトック、ユーチューブなどのいわゆる新しいメディアを用いて、自分の主張に説得力を持たせ、情報やメッセージを聞き手に印象づけたりするために、体験談やエピソード、既存の物語などの「ストーリー」を利用して伝える方法を学びます
試験・課題など	毎週ではありませんが以下のような課題がありました。長期的な課題もあったので、実際には同時並行でいくつかの課題を行っていました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の好きな写真家の紹介</li> <li>・留学生活についてのフォトエッセイもしくは動画の制作</li> <li>・任意のメディア媒体で興味関心あるトピックについて紹介する</li> <li>・自分と身の回りの物を用いて好きな絵画のリメイク制作</li> <li>・映画の撮影</li> </ul>
感想を自由記入	課題内容からわかる通り創作が多く、他の授業とは違った難しさがありましたが一番取ってよかったと思える楽しい授業でした。 私の留学での困難を動画にしたり、中国の友人とペアになり、日本と中国の文化の違いを伝えるインスタグラムの運用をしました。他の学生の制作物もとっても面白いものばかりで刺激を受けました。他の授業と比較して、自己表現する機会が多いため、自分の特性や好きなことについての気づきもありました。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Multimedia Technologies In Developing Intercultural Competence(MA)	異文化間能力開発におけるマルチメディア技術
科目設置学部・研究科	Cultural Studies, Polish Philology, Journalism, Library Sciences
履修期間	summer semester
単位数	6
本学での単位認定状況	4 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Seminar(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 90 分が 1 回
担当教授	Mgr Marek Molenda
授業内容	異文化に簡単にアクセスできる点と匿名性という、web2.0 環境におけるマルチメディアコンテンツの2つの特徴が組み合わさることによって、異文化コミュニケーションに悪影響が及ぶ可能性がある環境の中で、異文化間コンピテンシーを高めるために、sway と wordpress を用いてそれぞれの国・文化についてのコンテンツを開発します。
試験・課題など	sway と wordpress を用いてプレゼンテーションとウェブサイト制作の発表をそれぞれ中間と期末に行いました。 授業時間外に作業を課したくないという先生の方針に基づき、プレゼンとウェブサイトの制作も授業内で行いました。
感想を自由記入	お互いの文化についても学べますが、それはおまけのようなもので、Sway と WordPress の使い方、またはそれらを利用して行うプレゼンスキルが培える授業でした。Sway は AI を利用して効率的にプレゼンテーションが制作できるアプリで、Microsoft 365 を以前から利用していたにもかかわらず、聞いたこともありませんでした。簡単にクオリティの高いものが制作できる点に感動し、別の授業にも利用しました。また、以前 HTML でウェブサイト制作した経験があるのですが、WordPress を利用すれば断然簡単に制作できることを知れて良かったです。授業計画がとても洗練されており、初回授業から最終回まで滞りなく進みました。授業の説明も本当に分かりやすいので、初心者でも問題なくついていけます。こちらの担当教授の授業はすべてお勧めです。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Persuasion in Public Communication(MA)	公的コミュニケーションにおける説得技法
科目設置学部・研究科	Cultural Studies, Polish Philology, Journalism, Library Sciences
履修期間	summer semester
単位数	6
本学での単位認定状況	4 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Discussion practice class (チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に 90 分が 1 回
担当教授	prof.Piotr Cap
授業内容	対人・組織的コミュニケーションにおける、言語的及び視覚的説得とプロパガンダのメカニズムと、その意義を学びます。
試験・課題など	毎週配布される資料を事前に読んでおく必要がありました。
感想を自由記入	ポーランドの与党による反移民言説、イギリスの EU 離脱、さらにアメリカのブッシュ政権による 9.11 からアフガン侵攻、最終的にはイラク派兵に至るまでの言説など、様々な国の政治的イベントにおける言説を分析しました。担当教授が提唱している"proximization(日本語にするならば近接化)"がこの授業のキーワードです。これは「本来は近接した脅威ではないかもしれない存在」を迫り来る脅威として描き、聴衆の思考と行動に影響を与えようとする説得技法のことです。この授業を通して、世論が権威によって形成される面があることを学び、改めて言葉の強さを実感しました。

## 卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)

就職    進学    未定    その他:休学

2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。

(例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)

※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学中就活をしていなかった休学して就職活動をする予定です。

## 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。(例:語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	
	4月～7月	
	8月～9月	
	10月～12月	出願/結果発表
留学開始年	1月～3月	授業/寮申請
	4月～7月	留学許可証受け取り/寮の通知/ビザの取得
	8月～9月	ポーランド渡航
	10月～12月	
留学/帰国年	1月～3月	休み
	4月～7月	帰国
	8月～9月	
	10月～12月	

## 留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイスなど、自由に記入してください。

ポーランドは治安が良く、物価が安く、他のヨーロッパの国に旅行がしやすい立地が魅力的でした。また、留学前にアメリカやイギリス、アジアなど 10 カ国ほど訪れたことがあったため、今まで行ったことがない東ヨーロッパの国で、英語ではなくポーランド語が公用語の環境で生活することに好奇心が湧きました。そこで、ポーランドのウッチ大学を志望しました。とても実りのある留学生活で、小学校六年生から約 10 年間勉強してきた英語の勉強が報われたと感じられる 10 か月でした。色々なことを経験し、考え、今後の人生に直接つながる留学になりました。

私たち交換留学生は、現地の大学と学生に対してキャンパスの多様化の一員、そして異文化の伝道師として求められ、貢献することができます。つまり、日本人であることが私たちが現地で一番意識されるアイデンティティであり、私たちの発言・行動がすなわち日本人の意見・印象となるということです。留学中には日本の文化に興味のある人とたくさん出会いましたし、アニメや漫画、日本の政治や宗教、若者の流行、社会問題についてたくさん話しました。知識をたくさん身に付けて会話することはもちろん大事ですが、その中でも常に日本人を代表しているという意識を忘れないでください。

裏を返せば、それができれば交換留学生に求められている役割を果たしているので、自信を持って留学は成功したと言っていいと思います！留学中に何か大きなことを成し遂げようとしていたり(できる方は本当にすごいです!!)、就活を意識しすぎると、留学前の理想とのギャップに悩んだり、今を楽しめなくなったりしてしまうかもしれません。海外で生活したということが立派ですし、日本人であることを理由に友達ができることも誇るべきことです。どんな時でも自分を褒めてあげて、気負わず留学を楽しんでください！